

# 保育北九州

平成29年4月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟  
〒805-0019  
北九州市八幡東区中央2丁目1-1  
(レインボープラザ5F)  
電話(093)661-2153番  
発行人 酒井光義  
編集人 日野真人

2017 187



## 楽しかった保育園 ずっとともだちだよ

〈提供 八幡西支部〉

(5歳児の作品)

|              |     |
|--------------|-----|
| 表紙           | 1   |
| 保育所(園)からの手繋ぎ | 2~3 |
| 仲間たち         | 4~5 |
| 研修・一期一会      | 6   |
| 支部近況         | 7   |
| 雑感・編集後記      | 8   |

# 保育所(園)からの手繋ぎ

子ども家庭局保育課 重谷 勝子 保育所支援担当課長と  
白井 洋子 保育指導担当課長インタビュー

平成29年2月2日  
於・市役所11F 会議室

平成29年3月31日付けで退職される重谷課長と白井課長に、それぞれ担当されていた職務についてお話を聞かせていただきました。

文中(重谷)・・・重谷勝子保育所支援担当課長  
文中(白井)・・・白井洋子保育指導担当課長  
文中(編集A～G)・・・保育北九州編集部

(編集A) われわれの仲間として保育現場を長く経験された後、保育課で行政職として保育所(園)を支援し、またご指導いただいたお二方がこの3月をもって退職されると聞きま

した。それぞれの業務を通じて感じられたことや、伝えておくべきことなどをお聞かせいただきたく、このインタビューを企画いたしました。

(重谷) 大したことはお話しできないかもしれませんが、経験ならお話できると思います。よろしくお願ひします。

(編集B) こちらこそどうぞよろしくお願ひします。まず新制度についてお聞かせください。

(重谷) 保育の質の向上と量の拡大の両面から社会全体で子育てを支えようとする新制度がスタートしてまもなく2年

となります。行政も保育現場も、ようやく道筋のようなものが見えてきたように思います。この制度によって保育士の処遇改善なども進んできました。このことが、もともとレベルの高い北九州の保育の質のさらなる向上につながればと思います。

(編集B) 保育者への処遇改善の目的とは、単に、量の拡大に伴う保育者確保のためだけではなく、そのことによって子どもたちへの保育の質を向上させ

(重谷)

るためであるということなのです。

そうですね。わたしは今まで障害児保育をいろいろな形で担当させていただきました。保育の質が向上することによってこの子どもたちに対してこれまで以上に、個々に応じた配慮が出来る保育になつてくれればと願います。

(編集C)

できればそのあたりをもう少し詳しく教えてください。

(重谷)

子育ては、第二義的には保護者に帰するものなかもしれませんが、しかし保育者は親育ちへの支援も求められています。処遇改善によって子育て親育ちに対して、保育者としてこれまで以上の支援をしていければと思っています。

(白井)

わたしも同感です。保育者が親育ちへの支援を行っていくことは、時代的な要請もあれば社会的にも求められてい



ることであると考えます。子育ての第二義的な主体は何かと考えるよりも、いま、求められている子育て親育ちへの支援要請を大事にしていきたいですね。

(編集D)

われわれの保育現場を支援してくださっている方々もまた、二人の保育者として自分出来ることは何か、と常に模索されているのです。われわれ現場の保育者も、親子と協働したい、なんとか協力したいと考えて日々の保育を行っています。

(白井)

現場についてお話しが出ましたが、わたしは第三者評価事業を担当させていただいておりまして、その中で、現場の保

育者に接することができ、その悩みにも共感しておりま  
す。その時に、保育者のみな  
さんが、視点はいつも子ども  
たちで対処されていること  
がとても良く伝わってきました。

(編集F)

第三者評価事業を通して感じ  
られたわれわれ保育者側の問  
題点なども教えてください。

(白井)

施設長さんの保育に対する  
思いが、その園の保育に表れ  
ているなど感じました。リー  
ダーシップというのでし  
ょうか、それぞれの園の個性が感  
じられてわたし自身、勉強さ  
せていただくことも多かった  
ように思います。

(編集G)

良い面ばかりではなかったと  
思います。いかがだったで  
しょうか。

(白井)

事務局としましては、「より良  
いものにするための後押し  
のきっかけになれば」という  
スタンスで進めています。また  
保護者の方へのアンケート結  
果も、厳しい意見と好意的な  
意見、その比率はどの園もあ  
まり変わらないこともお伝  
えしておきたいことです。

(編集A)

もうほとんどの園が第三者評  
価に参加しているのですよね。

(白井)

残念ながらまだ100%には  
届きません。あと10園程度の  
未参加園があります。これか  
らもわたしたちからも働き  
かけていきますし、保育の仲  
間のみなさん方からも、第三  
者評価の良さを伝えていつて  
ほしいです。

(編集B)

こういふことこそ、行政まかせ  
にせず、われわれ保育仲間か  
らも伝えていきたいですね。

(白井)

ありがとうございます。それ  
から重谷課長は全保協常任  
協議委員会の公立保育所等委  
員会の委員長になっておられ  
ます。そのあたりをお聞きに  
なつてもよろしいかと。

(編集C)

それは知りませんでした。重  
谷課長は全保協における公  
立保育所等委員会代表とい  
う役割を担っておられたの  
ですね。北九州の保育の、全  
国における立ち位置は、全国  
の公立保育所のみなさん方  
から見てどうなのかを教え  
てください。

(重谷)

大きさに言わないでください



(笑)。でも委員会では他の自治  
体の方々から言われるのが、  
「北九州の保育は進んでいる」  
「行政と現場が協力して子ど  
もの育ちを考えている。そん  
なところはなかなかない」と  
いうようなことです。われわ  
れ行政も、現場のみなさんと  
一緒に保育を考え、また立場  
は違つても一緒に励まし合  
いながらやってきました。それ  
も昨日今日のことではなく、  
もう何十年の間です。これ  
は偏に西村法昭先生や藤岡  
佐規子先生を始めとする北  
九州の保育関係者が心から  
子どもたちファーストを考  
えてきた努力の賜物だと感  
じています。両先生はわたし  
が保育者人生を歩み始めた  
時からご指導いただいたお  
りしました。

(白井)

わたしも同感です。仕事を始  
めた頃はまさに仰ぎ見るよ  
うなお二人でした。それだけ

ではありません。歴代の連盟

や保育士会の会長さん、役員  
の方々の、「子どもたちのため  
に」「子どもたちはわれわれの  
未来そのもの」との強い意志  
に引つ張られて、北九州保育  
は歩みを進めてきました。先  
ほどお話しした第三者評価  
も費用が掛からぬようにし  
て参加し易い制度となり、ま  
た評価基準も上から目線で  
はなく、現場の仲間としての  
視点を心がけてきました。

(編集D)

ありがとうございます。それ  
では、今までの保育の道を一  
言でお願います。

(重谷白井)

こうして自分の歩んできた保  
育の道を顧みれば、苦労もあ  
りました。が、今となつては良  
いことしか思い出せません。  
北九州で保育士として歩ん  
でこられたこと、子どもの笑  
顔と一緒に過ごせたことは、  
わたしたちの誇りです。みな  
さん、これからも子どもたち  
と一緒に北九州で保育の道を  
歩んでください。わたしたち  
も保育仲間として応援して  
おります。

以上文責：保育北九州編集長 日野真人





保育所で配慮の必要なお子さんがいるときや加配保育士申請の際にお世話になり、また虐待が疑われるケースなどで連携をとっている子ども総合センターについて、具体的にどのような業務をされているのか、三谷判定係長に伺いました。

**Q.** 子ども総合センターについて教えてください。

**A.** 子ども総合センターは、児童相談所の機能に、24時間子ども相談ホットラインと、通所施設である少年支援室を合わせた組織です。18歳未満（少年支援室の一

部は20歳まで）の子どものことについて、どなたでも相談できます。電話での受付は月曜日から金曜日までの午前8時半から午後5時15分までです。まずは電話で相談を受け付け、お話を伺ったうえで、面談が必要な場合は日時を打ち合わせます。また、里親になります。

**Q.** 子ども総合センターの業務内容は多岐にわたると思いますが、どのような内容でしょうか？

**A.** たとえば「保護者が病気で入院し、子どもの世話をする人がいない」などの養育に関すること。「ことばが遅れている」などの発達に関すること。「落ち着きがない」などの気になる行動や不登校に関すること。その他にも「万引きや盗みをする」などの非行に関することや、「身体にあざや傷がたえない子どもがいる」などの虐待に関することなど、様々な相談に応じてい



待合室

ます。相談内容により、助言・他機関紹介・心理判定・通所指導・一時保護・施設入所や里親委託など、保護者や子ども本人とも相談しながら支援を行います。

**Q.** 子ども総合センターには、どのような部署があり、スタッフはどのような方々でしょうか？

**A.** 地域ごとに相談第1係〜第4係があり、担当が決まっている児童福祉司が主に相談に対応します。心理判定やカウンセリングが必要な場合は、判定係の児童心理

司が関わります。一時保護所運営を担当しているのが一時保護係で、保育士や児童指導員、それに一時保護所心理士等が所属しています。他にも、虐待の初期対応を担当する児童虐待防止担当係、非行相談や少年支援室との連携を主に担当する教育相談担当係、里親の養成や支援を行う里親支援担当係、センター全体の管理運営を担う庶務係などの部署があります。その他にも、非常勤嘱託の精神科医師が、虐待を自覚し悩んでいる保護者のカウンセリングや児童相談所職員のコンサルテーションを行っています。なお、保育所に所属する方が判定に来られる場合、判定係の児童相談員と児童心理司のみで担当します。ただし、保護者も含め家族全体を視野に入れた支援が必要な場合は、児童福祉司も関わる場合があります。

**Q.** 子ども総合センターで保育所の子どもが判定を受け

る際の流れを教えてください。

A. 保護者が判定を希望された場合、まず電話で判定の予約をしていただきます。その予約日時にお子様と一緒に来所していただきます。その時、初めて判定を受ける方は母子手帳をお持ちいただきます。子ども総合センターは療育手帳の交付判定機関でもあります。判定により、知的障害が認められるとの結果になった場合は、療育手帳について説明することになります。なお、療育手帳を取得するかどうかは保護者のご希望により決めることとなります。取得するとなった場合の手続きや各種福祉サービスの利用については、お住まいの区役所保健福祉課で行うことになっていきます。

Q. 判定を受けるのに要する時間はどのくらいでしょうか？

A. 人によって違いますが、概ね1時間半から2時間くらいです。



心理判定室

Q. 判定を受ける際に、保護者と共に保育士が同席するのは可能ですか？

A. あらかじめ保護者の方に同意を取っていただければ、可能です。

Q. 判定を受けた後、加配保育士の配置の申請はどのようにすればよいでしょうか？

A. 子ども総合センターは心理判定を担う部署です。心理判定後、区役所の依頼に基づき「障害児保育意見書」という文書でその結果を回答しています。保育所からの申請等については区役所の担当になりますので、各区役所保育所担当者として十分

に相談されるようお願いいたします。心理判定を行っても区役所から子ども総合センターへの依頼がなければ「障害児保育意見書」は発行されず手続きが進むことはありませんので留意ください。再判定の要・不要や時期についても、区役所への「障害児保育意見書」に記入してありますので、保護者や児童に不必要な負担をかけないためにも、十分に情報を共有しておいていただけると幸いです。なお、再判定時期に到達する前の判定は原則として行わないことにしています。また、過去の判定であっても、区役所からの依頼があり、再判定期限内であれば「障害児保育意見書」の発行は可能です。

〈インタビューを終えて〉

日頃から子ども総合センターのフロアーはお忙しいうだな、と拝見していま

たが、業務の幅広さに驚くと共に、0歳から18歳までの子どもたちのありとあらゆる困難に、本当に一人一人を大切に関わってくださっている姿に、私たちの関わる子どもたちには何かあったときには、安心して相談できる場所であると感じさせていただきました。

お忙しい中、インタビューに答えて頂き、ありがとうございました。



判定係の方々

# 研修・一期一会

## 平成28年度保育所(園)職員総合研修大会(福岡)

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ」  
「子育てに関わりを持つ」  
「社会の実現をめざして」

平成29年1月19日、平成28年度保育所(園)職員総合研修大会がホテルニューオータニ博多で開催されました。「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」という主題で、



午前中は3園の先生方の実践発表があり、園長・主任保育士・栄養士と、それぞれの立場からお話しされました。

まずは北九州市より、れんげの花保育園の黒田幸裕先生から「私なりの保育園経営の在り方」をテーマに、アクティブ・ラーニングなど、保育の質の向上を目指している話を聞きました。次に福岡市より「保育の実践力を高めるために」(自分を振り返り、発見し、学び合う)と題して、城南区グループ研修の先生方の研究結果を聞きました。最後に福岡県より「保育所の栄養士として」と題して、クッキング保育や食育教室、給食試食会などの写真を見せていただいて園の様子を聞きました。

午後からは、式典で県知事表彰がありました。そのあと東京大学大学院教授 秋田喜代美先生による記念講演がありました。「保育の質を高めるために育ち合い学びあう園をめざして」というテーマで、最初は、園としての質をさらに高めるためのお話でした。ワクワク発見という言葉が印象的でした。子どもを中心に共に信頼し育ちあい、そして相互にかかわりあう、ここにすべてが凝縮され



ていると思えました。2番目は園のリーダーシップ・キャリアパス・研修のお話で、階層的リーダーシップモデルより分散型・協働的リーダーシップモデルの方が着目されており、そのリーダーシップ得点の高さは、担任保育者の「かわり」「環境構成」の質の高さと関連しているという、とても興味深いものでした。3番目は、私たちの誇りの輪は、感情の共有からすべてに繋がっている、とあらためて確認することができました。

今日の研修の中で、秋田先生がおっしゃった「リーダーが真に優れていれば、終わってみると人々は口々にこう言う『自分たちの力でやり遂げた』と」。この言葉を聞いて、そういうリーダーになれ

るよう、もともとと努力しなければと  
思いました。  
高槻保育園 石井 縁



寄付

(二社) 北九州市保育所連盟  
(公社) 北九州市私立保育園連盟

北九州市保育士会

へご寄付

西教寺保育園 園長 日野真人  
様より前園長 日野宣之様のご逝去に伴い、保育事業発展のため多額のご芳志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。



支部近況  
 第13回 小倉北区篇

保育所連盟小倉北支部と  
 保育士会のコラボで素敵な  
 「保育まつり」を実施しています!

小倉北区独自の研修に「フリー研修」があります。  
 研修に参加した保育士から「研修をした成果の発表する場を作りたい～」と提案があり、研修で習得したものを保育まつりの際のお土産にしたり、保育士と遊ぶコーナーで披露したりしています。  
 その様子を写真で紹介します。



人形劇団ののはな納富氏



こぶたぬきつねこをみんなと一緒に!



保育士とあそぶ様子



コップんこシアターと  
 おみやげのちょうちよう



スポンジあお虫君

手づくり玩具は  
 研修で作りました!



動くトンボ

アイスの棒とスポンジを  
 利用して作りました。



「ボウリング大会の  
 予選」を  
 行っています



北九州市保育所連盟レクリエーションボウリング大会で支部長を囲んで選手との記念写真

北九州市保育所連盟レクリエーションボウリング大会の予選を、毎年各施設代表選手を募り行っています。26年度までは思うような成果が出なかったため支部長のアイデアで「予選後にプロ選手の指導を!」の一声で特訓を行うようになりました。その成果は27年度1位、28年度は2位と特訓の成果を出すことができています。1位を目指して次年度も頑張ります!

大好きなママ  
「お花をどうぞ」

(5歳児の作品)



次女が登校拒否になったのは、小学一年生の五月の連休明けでした。朝「いつてきます」と学校の方向に歩きだしたかと思うと、十メートルも進んだか進まないかのところで、「おかあさん」と帰ってくる娘。仕方がないので手をつないで、途中まで送ったり、学校まで連れて行ったりしました。時差勤務があるので早い勤務の時は、二つ上の長女にお願いして家を出るもの「おかあさん」と車を追ってくる娘。長女の話では、学校のフェンスにしがみついて「こわーい」と泣き、なかなか校門がくぐれないでいる娘を、学校の先生方が「よってきたね。おはよう」と学校の中に引き入れてくださっているとのことでした。

そんなある日、担任の先生から「Rちゃんのことでお話ししましょうか」とお声かけいただき学校に行きました。私は娘の姿、困っている現状をお話ししました。先生は頷きながら「そうですか」と聞き手となって私の話に耳を傾けてくださいました。いろいろ話すうちに「娘も小さな保育所から大きな学校に来ることになって不安な気持ちが強くなったのかもしれない」と、私はやっと娘の気持ちになってやることができました。考えてみれば保育所の行き帰りもずっと一緒に、片道四十分の道のりは娘とのおしゃべりの時間でした。入学してからは、いろいろなところでさみしさを感じさせていたのかもしれないと反省をしました。そ

れと同時に、先生とのこの時間は、私の胸の内を吐き出させ、心を軽くしてくれていました。

学校から帰ると、「おかあさん、今日の宿題ね、音読なんよ。聞いてね」と娘は国語の本を読み始めました。読み終わった後、「上手やったねー。特に声が大きいのがよかったよ」とほめてやりました。すると「もう一つ読むね」と音読が始まり、終わるたびにコメントをし、気づけば十回も。音読カードにもいろいろな感想を書き綴り持たせると、先生からは印だけでなく、一言添えられ、似顔絵が描いてありました。娘はそれから毎日音読を聞かせてくれました。物語だったり、詩だったり。

音読カードに私も心をこめてコメントを書きました。先生の協力もあり、夏休み明けからは、姉を困らせることなく学校に通うようになっていました。そんなある日のこと、私がお風呂に入っていると、ドアの向こうから「おかあさん、読むよー」と音読が始まりました。「はなのみち。くまさんがふくろをみつめました。おや、なにかないっぱいはいつている。…」

湯船につかりながら何度も聞いた音読。あれから十八年。今は社会人になって、時々しか帰ってこない娘ですが、あの音読の声は今も私の中に残っています。

「はなのみち…」いい時間だった。

西戸畑保育所

所長 松本 淳子

編集後記 — 中越から九州へ —

毎日新聞朝刊(2017.2.18)「たまたばこ」欄に藤岡佐規子先生に関する記事が載っていました。2004年10月の新潟県中越地震で被災し、発生から92時間後に土砂の中から救助された男の子との交流についてでした。被災当時2歳だった男の子——皆川優太さんが小学校に入る時、藤岡先生が学資の足しに、と魚沼市を通じて芳志を送られたそうです。それ以来、賀状のやりとりが続いていると書いてありました。その優太君も今では中学3年生になっており、熊本地震後、仲間たちと街頭に立って募金への協力をもとめたそうです。そうやって集めた募金と、優太君自身がお小遣いを貯めていた分とを合わせて、「九州での大地震へのお見舞いとして、わたしの気持ちを受け取ってください」と藤岡

先生のもとへ送ってこられたそうです。そのことを知った毎日新聞の記者が署名原稿として掲載しました。藤岡先生は優太君らが集めた募金を毎日新聞西部本社社会事業団熊本地震救援金に寄託されました。記事中にはもう一つのことが書いてありました。藤岡先生が優太君に送ったものに、絵本「いのちのまつりヌチヌグスージ」があったそうです。この絵本はご先祖様を通して、命の繋がりと尊さを描いたものだそうです。わたしはこの記事を読んで、困難に立ち向かう人々に共感されている先達——藤岡先生を誇らしく思いました。どうぞこれからもわれわれを御教導くださいませ。

「保育北九州」編集長 日野真人